日本女醫会誌
復刊第46号

副会長再任にあたって

小俣喜久子

東京の弥生の空は相変わらずスモッグに閉ざされ霞か雲かさだかでありませんが、自然の中には春の息吹きが感じられる今日この頃です。全国の日本女医会の先生方には益々お元気にご活躍のこととお慶び申し上げます。

昨年の今頃は万国博覧会の開会と同時に医療奉仕が始まり全国から多数の先生方が出動されておりました。会員の方々の絶大なるご協力により閉会の時には万国博の好評とともに日本女医会の医療奉仕の大事業は各方面から感謝され社会的にも女医の実力が再認識されたのであります。去る十一月十五日の臨時総会は日本女医会創立以来の大盛況でありましたが、これも医療奉仕によって日本女医会々員の縦横の連係が出来て親近感が深まったことと、社団法人日本女医会として再発足して始めての選挙が行なわれたことが会員の先生方の関心をたかめたものと思われます。今回の役員改選で再び私が副会長に留任することになりました。ご推薦下さいました各理事および会員の方々のご支持にお答え出来ますよう一生懸命努力して参りたいと思います。何卒ご支援、ごべんたつを賜りますようお願い申し上げます。このたび選出されました新理事各位は皆日本女医会のために猛烈な熱意をもやして働こうとしている方々ばかりです。日本女医会としては、申すまでもなく日本の総ての女医の団体であることに意義があるものと思います。従って戦後新設された大学卒の女医の方々にも役員として大いに活躍していただきたいと思います。全国の支部の先生方は各大学出身の女医の方々に一人でも多く会員になっていただくようご勧誘をお願い致します。

一方会員をふやすためには日本女医会を魅力ある会にしなければなりません。そのためには、女医会として特色のある事業を計画したいものであります。幸い会長三神先生は東京女子医大の教授であり院長でありますので医学の進歩、および医療の向上を計る手段として研修会を開くことも一法でありましょう。今迄日本女医会の発展は先生のお力に負うところ大であると思います。これも会員の先生方の協力がなければ不可能であります。改めて会員の先生方のご支援を心からお願い申し上げる次第であります。最後に来る五月十六日、日本女医会総会が高知県で開催されます。地元では支部長窪先生を中心に諸先生が万全の準備をされております。何卒万障お繰り合わせの上ご出席下さいますようご案内申し上げます。

理事会議事録

庶務常任理事　森千鶴
柳瀬路子

日時：45・12・12　午后三時
場所：世田谷区　泉仙
出席者：三神・川那部・小俣・山崎・中西・中川・森・大原・柳瀬・久保田・白橋・丸山・守安・小野・荒川・湯本・森川・綾仁・阿部・戸田・真鍋・鈴木・山口・上田・佐野・松岡・橋本・福永・佐藤・長池・稲葉・石田・佐藤・添田・八木

報告事項
○昭和45年度9月～11月の会計報告あり、一同了承す。

議事
○事務分担について
従来の庶務・会計・渉外・編集に事業部を新設して五部門とする。
副会長も事務を分担することになり副会長・常任理事の事務分担が決定（後述）。
○吉岡弥生賞審査委員について
推薦委員は理事と支部長（従来通り）
審議委員：基礎部門、臨床部門いづれも従来通り
審査委員：第3条により竜・荒川両女史の他会長・副会長を加え、計六名としあとの四名は会長副会長に一任する。
○昭和46年度事業計画について
日本女医会館設立の件、老人ホーム設立の件について会長より提案。担当理事が検討することになった。
○その他
支部助成金として納入会費一口に対し通信費として一〇〇～一五〇円程度の還元をしては如何と発案あり、可決。
愛知県支部より支部助成金交付の申し出あり、事業内容からおして公衆衛生部門よりの支出が適当という事になった。
性教育を本会の事業として取り上げたいと提案あり。小委員会を作って検討する事となる。
国際連絡書記には佐野アヤ子理事が再任された。
理事の理事会出席旅費について会計が予算を組んでみる事になった。

以上

日時：46・2・27　午后三時
場所：日本女医会本部会議室
出席者：三神・川那辺・小俣・山崎・中西・中川・森・大原・柳瀬・久保田・丸山・守安・小野・山本・荒川・湯本・森川・真鍋・鈴木・山口・上田・佐野・松岡・福永・佐藤・稲葉・石田・佐藤・添田

報告事項
○理事の事務分担について次の報告あり（森）

庶務
副会長　小俣
常任理事　森・柳瀬
理事　森川・松岡・福永・長池・石田

会計
副会長　川那部
常任理事　中西・丸山
理事　中村・綾仁・山口・稲葉

渉外
副会長　山崎
常任理事　中川・小野
理事　戸田・真鍋・佐野・橋本

編集
副会長　小俣
常任理事　久保田・白橋
理事　鈴木・栗原

事業
副会長　山崎
常任理事　大原・守安
理事　山本・荒川・湯本・阿部・上田・佐藤

○吉岡賞審査委員の欠員は中西・中川・森・橋本の四理事に委嘱する事に決定した。（会長）

○熱海市紅葉ケ丘の土地は老人ホーム建設には不向きである由福永理事より報告あり。（福永）

○吉岡弥生賞受賞者に岸直枝（群馬県）川田仁子（東京）両姉、へき地診療功労賞として植松喜久江（山梨県）姉が決定された旨報告あり。（会長）

○45・12月分、名簿作成分、46・1月分、臨時総会分、の会計報告があった。（中西）

議　事

1　昭和四十六年度事業計画案について（大原）

事業部より、奨学事業、助成事業（殊に支部助成金について）協力事業（殊に性教育について）国際女医会について説明あり、性教育については資料をあつめる事になった。

2　渉外部協議事項について（中川）

渉外部役員会の協議事項および事業計画が提出された、国際女医会を日本で開催する件についてはなお、必要経費の検討をすることになった。

3　昭和四十六年度予算案について（中西）

詳細な予算案の提出あり、会費値上げの提案があり、再度検討のことになる。

4　愛知県支部の活動（婦人と子供の健康を相談する会）に公衆衛生部門の助成事業費を五万円支出する事に決定。

以　上

昭和十一年当時の、日本女医会会則・役員名簿ならびに入会勧誘状

（大原一枝常任理事がご卒業当時日本女医会から配布をうけ、今日まで保管されたものであります。前進しつつある日本女医会は、すでに三十余年前から、大きな理想をかかげ、社会事業に具体的に力をつくしていたものであります。

社団法人としての本会の今後の発展の上に大いに参考になるかと思われますので、当時のそのままのものを掲載いたします。およみ下さい。なお諸先輩の慧眼と実行力とを御憶いいただきたく存じます。）

日本女醫會々則

第一條　本會ハ日本女醫會ト名稱シ日本及海外ニ於ケル本邦女醫ヲ以テ組織ス

第二條　本會ハ會員各自ノ品性ノ向上、智識ノ進歩及相互ノ親睦ヲ計リ協力一致社會ニ貢獻シ人類ノ福祉ヲ增進スルヲ以テ目的トス

第三條　此目的ヲ貫徹スル爲メニ定期ノ集會ヲ開催シ並ニ雜誌ヲ發行ス

第一項　集會ハ毎年二回以上例會ヲ開キ三年ニ一回總會ヲ開催スルモノトス

但シ時宜ニヨリ臨時總會ヲ開クコトアルベシ

第二項　雜誌ハ日本女醫會雜誌ト名稱シ本會ノ機關トシテ一年三回以上發行シ會員ニ頒布ス

第四條　本會ノ事務所ヲ當分東京市本郷區本郷二丁目三番地六杉田鶴子方ニ置ク

第五條　本會ハ左ノ役員ヲ置ク

第一項　會長一名、副會長一名、評議員若干名

會長、副會長及評議員ハ會員ノ選擧ニヨリ之ヲ定ム

但シ缺員ノ生ジタル場合ニハ評議員會ノ決議ニヨリ之ヲ補缺ス

第二項　會長ハ會務ヲ總理シ副會長ハ會長ヲ補佐シ會長事故アル時ハ之ヲ代理ス

副會長事故アル時ハ評議員ノ一名之ヲ代理ス

第三項　會長、副會長及評議員ノ任期ハ滿三ケ年トス

第四項　本會ノ庶務會計及雜誌編輯ハ評議員之ヲ分擔ス

第六條　評議員會ハ隔月一回之ヲ開キ決議事項ハ出席者半數以上ノ同意ニヨリテ決スルモノトス

但シ臨時ニ開會スル事ヲ得

第七條　本會々費ハ一ケ年金三圓トス

但シ集會費ハ之ヲ含マズ

第八條　地方會員ト聯絡ヲ計ル爲メニ地方支部ヲ置ク事ヲ得

第九條　會員死亡ノ際ハ本會ヨリ相當ノ弔意ヲ表ス

第十條　本會々則ハ總會ニ於テ會員ノ決議ニヨラザレバ變更スル事ヲ得ズ

役員姓名

會長　吉岡彌生
副會長　福井繁子

評議員

東京　二十五名（イロハ順）

井上女子　吉田賢子
大貫節子　吉岡彌生
吉岡房子　竹内茂代　多川澄子　高辻マサヱ
田口冬　中山義子　山田玉與　安川八重子
前田園子　福田みき　兒玉琴枝　相川文子
足立智惠子　定方龜代　三輪田繁子　篠田勢以子
島峰いち子　下山松枝　蛭田滿子　菅志津勢
杉田鶴子

關西支部

大阪　十六名（イロハ順）

井上幸子　荻谷清江　渡邊三千子　橋薫子
長岡悅子　中村範子　村上琴子　松浦たね子
町静子　福井繁子　北野梅生　新武民子
繁田政枝　菅沼静子　菅澤鶴子
（一名缺員）

京都　五名（イロハ順）

富田房子　河村悅子　吉田八重野　的場莊子
佐々木幸枝

神戸　六名（イロハ順）

大政稻野　高橋ハルヱ　中山たま子　野間きく子
幣原節子　新保小春

名古屋　二名（イロハ順）

伊藤照子　田邊かすみ

以上五十四名

會計委員（イロハ順）

前田園子　三輪田繁子　杉田鶴子

編輯委員（イロハ順）

大村ひさゑ　多川澄子　安川八重子　福田みき
兒玉琴枝　杉田鶴子

吉岡賞受賞にあたって

国立福山病院皮膚科
荒木寿枝

大原教授より突然のお電話で、吉岡賞受賞のお知らせをいただき、身に余る光栄と一瞬喜びに子供のように小踊りしました。それも昨年、皆見賞（皮膚科学会賞）がだめだったと谷奥教授よりお知らせがあり失望しておりましたので——

早速、恩師、小堀辰治先生、谷奥教授にお電話しましたところ、我事のように喜んで下さりほんとうにうれしく存じました。しかしその夜、冷静になって見ますとこれは大変なものを頂戴したと、今後の責任の重大さに、はっとしました。私共の偉大な先駆者であり、又私の中学時代からのあこがれであった吉岡先生の偉大な御業績、ご人徳に対する記念賞の対照として私が選ばれましたことは、言葉にたとえようもなく、諸先生方のご厚意と感謝いたしております。

受賞テーマは、「光線過敏症の基礎的ならびに臨床的研究」で、私が東京逓信病院在職中約七年間にまとめたものです。光線過敏性皮膚疾患は、近年次第に増加の傾向にあり、従って、そ

吾が日本女醫會は明治三十五年四月、前田、吉岡兩女史等所謂初代女醫諸氏の主唱に依つて創立せられ、會則の示す如く、會員相互の親睦と向上と人類の福祉を增進する目的を以て生れました。

本會々員は日本全國の女醫を網羅し創立以來既に三十四年の星霜に及ぶ今日、三千餘名の多きに及んで居ります。

斯くて本會の基礎も年と共に鞏固となり、且つ會員諸姉の努力と奮闘により、個人的には社會に樞要の地位を占め博士號受領者も十名に及び、團體的にも女醫なるものの眞價が認められ、國際的にも本會の存在が重要視さるゝに至りました。

本會の過去に於ける仕事としては未だ他に誇るべき程のものも有しては居りませんが、敢て之れを記載すれば大略次の樣なものがあります。

毎年二、三回の例會、及三年毎に一回の總會開催

機關誌「日本女醫會雜誌」（目下隔月一回）の發行

（會誌には、女醫の醫學に關する論文及び臨床上の實驗等を載せ、會員の知識の向上に資す）

代表的外國女醫來朝時の歡迎、送別會開催

萬國女醫會議に對し本會代表の派遣

汎太平洋婦人會議に對し本會代表派遣

世界大戰後獨逸救濟義金の募集及寄附

關東大震災に於ける義捐金募集及罹災會員慰問

救癩事業に對する寄附

麻藥中毒救護會へ寄附

各方面の見學及講習會開催

缺食兒童給食の爲の募金運動

滿洲及上海事變の傷病兵慰問

全滿婦人團體聯合會へ寄附

關西風水害、函館火災其他の災害における義捐金募集及罹災會員慰問

以上の如く本會は從來ひたすら地味に、堅實に、歩んで參りましたが、近時の苦しき世相の變轉は吾々をして遂に象牙の塔を出で社會に進出するの餘儀なきに至らしめました。

今や社會の大勢は吾々醫師をして單に疾病治療醫としてのみならず進んで豫防醫として疾病を未然に防ぎ、國民の體力をよりよく增進せしむべき重大なる任務をも與へらるゝに至りました。

茲に於て吾々は益々學術を研磨し才能を發揚すると共に社會衛生或は社會事業に向つてその獨得の尊き母性愛を發揮すべき時代が參りました。例之吾が國に於て特に高率を示せる彼の乳兒死亡率、及び結核、癩病の撲滅運動の如きに就ては吾々女醫の力を俟つ所頗る大なるものがあります。

又海外諸國との交通は日に月に頻繁を加へ、曩きには萬國女醫會の創立せらるゝありて、本會よりも代表として評議員井上友子女史を派遣し、其後の萬國女醫會には吉原りゆう子、戸田邦子、簑内照子、諸女史を送り布哇に於ける汎太平洋婦人會議には本會代表として吉岡會長を送り次回には定方龜代女史を送りました。

之れ等の事實に依つて見るも、吾が帝國女醫の任務卽ち本會の使命は今後益々重きを加へ一方、複雜逼迫せる世相は吾等女醫の醫業の權利を保護する上にも各自の孤立を許さず、會員の一致協力を必要とすると共に各自が本團體の一員として相互に其權益を全ふする事が愈々喫緊の問題となつて參りました。

新たに國手としての榮冠を擔ひ給へる諸姉よ、速かに本會に入會せられ共に〳〵提携して益々斯學の蘊奥を極め、社會の淸淨と健康の爲めに盡し、大いに國威を四方に輝かし世界人類の幸福を計らうではありませんか。

（おことはりなき方は勝手ながら御入會下さるものと認めさせて頂き引續き會誌を御送り致します）

昭和拾壹年　月　日

日本女醫會

女醫各位

の原因ならびに発生機構を解明することは日常臨床において、重要なことと考えられます。研究内容を簡単にご紹介いたしますと、いわゆる医原病で、種々の治療薬剤（これら薬剤の中には、日常我々がよく使用するサルファ剤、降圧利尿剤、経口糖尿病薬、フェノサイアジン系薬剤、内服抗白癬菌剤、人工甘味料などがありますが）を内服した後、日光にあたると露出部に一致して湿疹様変化をきたす、いわゆる薬剤に起因する光線感敏症に関する研究であります。私は、これら疾患の原因を解明するのに必要な光源装置（太陽と出来るだけ近似の波長分布を示すもの）を考案し、これを利用して、光線テストに一つの形式を設定しました。これによって、種々の原因物質を発見し、又その発生機序をも或程度解明し得られました。

受賞式後に申し述べましたように、七年間の私の研究生活におきまして、小堀、谷奥両先生のご指導を受けましたこと、又家庭環境にかなり恵まれ（この間に二児を出産しましたが、適当なお手伝いさんがありまして）研究生活を続け得られましたことは、ほんとに仕合わせと存じております。私の周囲に、非常に優秀な方が、家庭の事情（多くはお子達のお世話をする適当な方がない場合）で研究生活を中断されることが余りにも多く、いわゆる社会福祉の面からのみでなく、これらの方が安心して研究生活をお続けていただく意味からも、立派な保育施設が出来ますことを望んでやみません。

理事会に出席して
――ひとりごと――

佐藤千代子

『午后三時、定刻開会』当然の事午ら嬉しい。『庶務報告』いろいろの中から。

『吉岡賞審査会報告』今年度受賞者決定精薄児の為に生涯を捧げて来られた先生方、ほかお一方立派である。第一回の方々に引き続き吉岡賞の意義が愈々確立された感じ。各国女医会の活動を発表する機関誌が国際女医会にあると宜しいのにね、といっても、毎月国際女医会々報が送られて来たら読むのに大変。私にはね。

『会計報告』――昭和四十六年予算案等――

どこの会計報告もそうであるように数字の確例を見ると、全くよそよそしい感じのするのは何故なのかなあ。然しこゝまで数字を出される担当理事の先生のご苦労は、並大抵ではないんです。そのご苦労に報いるためにも一字一字丁寧に見なくては。―質問活潑―うーん、矢っ張り鋭い点をつかれるなあ、ベテラン理事は。しかし予算案、前年度との対比が出ていると、増減、新設など新米にもよく理解が出来るのにねえ。理事会だから省略されたんですね、それにつけても支部での事業計画、予算決算書などの作製では、一言一句ずい分支部長にしごかれたなあ。

―会費値上も止むを得ないがまず会費の完全徴収についての努力をしなければ―。賛成！

『事業計画案』いろいろの中から、

―奨学金―アメリカでは毎年医学部を首席で卒業した女医に百ドルの賞金を呈し表彰しているんですね。若い人を勧誘する意味もあるのでしょうがその事自体意義あるように思います。なお研究の余地ありですが……。将来、又検討されますように。

―性教育―日本女医会編集の立派な本を作りたい―（会長）、教育する側のテキストなのかしら。対象者に読ませる本かな？　性意識の出発点から相反する両者に共に魅力ある本なんていうのはむづかしいでしょね。あくまでも女医としての立場で書かれたユニークな本が出来たら素晴しいですね。愛知県の純潔教育担当の先生方が行なわれた性意識調査の結果が全部集計出来ているといろいろ参考になると思いますが……。

―執筆者は支部長推薦などの方法で全国の会員にに協力していたゞきましょう―。賛成。

―夢―老人ホームもいいけれど女医ならではの仕事……たとえば母親が入院しなければならない時まづ困るのは乳幼児の事。そんな時保育施設が附属した母親専門病院とか、虚弱児専門の保育園とか……。勿論そこで働く若い女医の子供の保育室も完備して。

『愛知県支部活動への助成金について』

―山崎副会長よりの質問―さすがケルンプンクトをつかれましたねえ。

―公衆衛生事業への助成金交付の事業計画に従って交付決定―あゝよかった、やれやれ。とき既に六時。寒気覚え、早春の夜の幕。

『総　括』

―明快な進行、決断、そして大らか。会長、副会長先生方。

―国会審議の貫録で「地方理事いい事いうねとすかさず賞められる所、さすが山本先生。

―逡巡無く、遠慮容赦無く、時には肺腑をつくベテラン理事の質疑応答。日本女医会理事の面目こゝにあり？

―それにしても熱気のこもるのは真剣さもさることながら部屋の狭い事。両側で熱弁をふるわれる余波を受け新米としては椅子を後退し小さくなるばかり。会長の顔の見えない理事会は始めての経験でございます。発言しようと思ったらいち早くあたりを圧する大声でさっとしゃべり出さなくてはならないのはスリル満点ながら如何なものでございましょう。

―席上、今に重大発言をされそうなお顔をしていらして最後まですましていられた久保田理事、お顔をみつめたのがわざわいしてか帰名して翌日、新米理事の感想を書くようにとの速達。さてはお腹の中のひとりごと、みすかされたかと致し方なく、無形の思いを有形の字に変化させましたら失礼の数々、何卒お許し下さい。どうぞ宜しくご指導賜わりますようお願い申し上げます。

へき地診療助成金
公衆衛生（社会福祉）助成金について

本年度の協力事業として交付されます。選考資料添付の上、支部長より本部あて提出願います。

期日　六月二十日まで（庶務）

編集後記

紙面の都合で、以前から頂戴しておりますご寄稿を残念ながら、この号に掲較出来なかったことをお詫びいたします。なお、編集子初心につき万々不行届。しかし、今後大いに努力いたし皆様の意にそう「誌」になりますよう働く気は充分持っているつもりですので、卒直なご意見をお聞きかせ下さる事を期待たします。

いま、参議員に立候補の、山本スギ（全国区）川野辺　静（静岡地方区）の両先生に、日本女医会の会員らしい清潔なる戦をかちぬいていただくことを切にお願いする。

昭和四十六年四月二十日印刷
昭和四十六年四月二十五日発行
編集人　久保田　く
発行人　日本女医会
発行所　東京都新宿区市ケ谷河田町19
社団法人　日本女医会
TEL(341)〇九六八
印刷所　東京都港区白金五―四―一
興栄美術印刷株式会社

題字　吉岡弥生